

大学入試改革

首都圏の4大学に聞く

日本教育新聞社と(株)ナガセによる夏の教育セミナーでは、各大学の入試改革や教育改革などについての講演もある。首都圏の主要大学の関係者に、入試改革や問題意識を聞いた。

一橋大学



学部教育を最近、見直しました。

人材の国際流動化時代を視野に入れたグローバル化への対応と単位制度の実質化が軸です。

グローバル化にどのように対応しましたか。

二つありますが、最も大きな変更点は4学期制を導入したこと。海外の大学に留学するには語学学校とサマースクール(短期語学研修プログラム)に参加してから3~4年次に1年間長期留学することが効果的なのですが、国内の大学で一般的な2学期制では、6月から8月に開かれるサマースクールに参加しにくい状況でした。4学期制にして、夏学期(6~7月)には2年生の必修科目を置かないようにしたこと。海外の大学のプログラムに参加しやすくなりました。

東京大学



2015年の「東京大学ビジョン2020」では「多様性」と「卓越性」という基本理念を示しました。アドミッション・ポリシー(入学受け入れ方針IIAP)にどう反映していますか。

入学者の多様性を活力として卓越性を目指し、そこからさらに知の多様性を豊かにしていくのが目標です。高いスタンダードを求めるとは変わっていません。その中で、さらなる多様性を求めて、16年度から推薦入試を導入しました。

過去3回の推薦入試を振り返って、手応えはいかがですか。

各学部にとっては、高校生に直接来てもらう、初めての制度なので、どうやって合格者を決めるか、また経験を蓄積しているところ。1期生は今春3年生

時代にとらわれぬ基礎学力を

になりました。学年100人、基礎学力という名称です。それぞれの学部で周りにても、力が与えるような活躍を期待したいです。ただ、学部にとっても志願者にとって手間暇のかかる選抜方法なので、すぐに定員を大きく増やすようなことはないと考えています。

南風原 朝和

高大接続研究 開発センター長

4学期制で海外留学につなげる

入したのは昨年度で、すぐ勉強時間は同じくらい確保に留学する学生が増えたわけではありませんが、数年のうちに増えてくれればよいと思っています。

三隅 隆司

学長補佐

早稲田大学



この数年、早稲田大学が大きく変わっていると感じます。

かつては長くも長くも自由な校風が早稲田らしさでしたが、2000年ごろから学生の多様化が起きて、大学教育にさまざまな支障が生じるようになりました。そこで、12年に中期計画の「ビジョン150」をまとめ、経営資源を教育に集中する方針を打ち出しました。

具体的には、どのような計画ですか。象徴的なのは少人数教育です。かつては6000人を超えるようなマスプロ教育が当たり前のまま、現在は多くても1000~2000人、実際には8割以上の授業を50人以下で行っています。それに合わせて施設も変えました。学生の自主的なゼミを求める授業が増え

慶應義塾大学



入試の現状を教えてください。

慶應義塾大学では、全学的に同一歩調を取るのではなく、各学部の意向を尊重するという基本方針があります。その上で、他大学に先駆けて多様な入試を取り入れてきました。(理)工学部が1986年度に導入した指定校推薦、SFC(湘南藤沢キャンパス)が90年度に導入したAO入試、いずれも日本で初めての試みでした。法学部はセンター試験に初年度から参加しましたが、後に撤退して、AO入試に地域ブロック枠を設けました。国際入試も、留学生入試や帰国生入試、IB(国際バカロレア)入試など、各学部が多様な入試を実施しています。

沖 清豪

入試開発オフィス長

たこともあり、ラーニング・コモンズ学習スペースなどのスペースを、この4~5年で大幅に増やしました。

政治経済学部を中心に入試改革を進めます。政治経済学部は、海外からの留学生のレベルが極めて高く、学部教育を成立させるには日本人学生も同等のレベルが求められます。これまでの私大文系3教科型の入試では、入学後の教育についていくことが難しくなっており、一般入試については21年度入試から「共通テスト」「英語外部検定試験(学部独自試験)」の合計点で選抜する方式に変更します。共通テストは外国語、国語、数学I・数学Aを必須にします。

一方で18年度入試から、地方出身者を対象にした「新思考入試」も始めました。狙いは何ですか。卒業後、地域に戻り、そ

大石 裕

常任理事

2016年9月に創設したPEARLは、全方リキラムを英語で行うプログラムです。4年間一貫して英語で経済学を学ぶことで、世界を舞台に活躍できるグローバルリーダーの輩出を目指しています。

「主観性」「多様性」「協働性」の評価について、どのように対応しますか。国が一定の基準を設定するは書類審査のみ。17年度は498人の出願があり、187人が合格しました。多くの学部が入試に小論文を課しているのも特徴です。知識に加え、論理力や表現力、その前提となる読解力を測るために小論文を課しています。受験生にとって多少負担になるかもしれませんが、将来社会に出る際に必ず求められる能力です。日常的に自らの考えを言葉に表す練習をして、受験のみならず、今後の人生に備えるつもりで取り組んでほしいと思います。

政経学部入試、数学を必須に

政治経済学部を中心に入試改革を進めます。政治経済学部は、海外からの留学生のレベルが極めて高く、学部教育を成立させるには日本人学生も同等のレベルが求められます。これまでの私大文系3教科型の入試では、入学後の教育についていくことが難しくなっており、一般入試については21年度入試から「共通テスト」「英語外部検定試験(学部独自試験)」の合計点で選抜する方式に変更します。共通テストは外国語、国語、数学I・数学Aを必須にします。

小論文課し読解力を測る

2016年9月に創設したPEARLは、全方リキラムを英語で行うプログラムです。4年間一貫して英語で経済学を学ぶことで、世界を舞台に活躍できるグローバルリーダーの輩出を目指しています。国が一定の基準を設定するは書類審査のみ。17年度は498人の出願があり、187人が合格しました。多くの学部が入試に小論文を課しているのも特徴です。知識に加え、論理力や表現力、その前提となる読解力を測るために小論文を課しています。受験生にとって多少負担になるかもしれませんが、将来社会に出る際に必ず求められる能力です。日常的に自らの考えを言葉に表す練習をして、受験のみならず、今後の人生に備えるつもりで取り組んでほしいと思います。

2018 第5回

夏の教育セミナー

新学習指導要領と大学入試改革

参加無料 セミナー 交歓会とも

5年目となる 本年は より実践型へ!

主催：日本教育新聞社 / 株式会社 ナガセ (東進ハイスクール・東進衛星予備校)

セミナー共通プログラム

(予定) 13:00~18:30

プログラムの詳細は、変更の可能性があります。

第1部 13:00 開会

13:20 特別講演 ① 新学習指導要領や大学入試改革の要諦について、教育改革を推進する文科省等の制度設計の担当者・有識者より講演いただきます。

14:30 特別講演 ② 大学入試や授業改革の具体的な変化についての講演。「大学入学共通テスト」のモデル問題・試行調査の解説等を予定しています。

15:30 特別講演 ③ 文部科学省「トビタテ! 留学JAPAN」プログラムより、高校生への留学支援についてご紹介します。

第2部 16:00 分科会 (90分)

第3部 17:40 交歓会 (50分)

分科会は教科別の授業実践と大学のアドミッション・ポリシーから選べます!

各教科の授業実践

について、実際に高校で指導している先生から、実際の教材や授業の様子をご紹介します。英語、数学、国語の教科別に、授業案やモデル問題解説などを行います。

各地域の主要大学

から、幹部や担当者が登壇。「どのような学生を求めているか」や、改革を実現するための大学の取り組みなどをご紹介します。

※東京会場は分科会 16:10~、交歓会 18:00~を予定しています。

>>> プログラム詳細は、順次ホームページにて公開いたします。

●ウェブからゾクゾクお申し込みをいただいています!

夏の教育セミナー kyoiku-sakidori.com

夏の教育セミナー

検索

